

地域医療の現場から

みなさまは、体調が悪くなつてしまった時にどのような対応をしますか？

おそらく、近くの病院に行くことを考えたり、薬局に薬を買いに行くことを考えるでしょう。重症だと思つた時は救急車を要請しますね。

薬局に行つても、病院に行つても、治療の多くは「薬物治療」になります。もちろん、手術などの外科的治療、放射



セコムメディック病院
薬剤部 部長

線治療、リハビリ等もありますが、多くの場面で薬剤を使います。

以前にもこの場を借りて、「近年の薬剤はともよく効く」事を書かせていただきましたが、医療用の薬剤が市販薬に切り替えられたり、医療用でも次々に新しい薬剤が発

薬物治療と薬剤師

売され、正しく使う事が重要になっていきます。研究者はなるべく副作用を減らそうと考へて創つていのですが、副作用の無い薬剤はありません。そこで、ぜひ相談していただきたいのが「薬剤師」です。

薬局でも病院でも必ず薬剤師がいます。症状、年齢、病歴、アレルギー、服用・使用中の薬などをうかがいながら、薬剤の適正を判断しています。

薬局では、その情報を基に最も適していると考へられる市販薬をお勧め

したり、処方箋の薬剤が症状や体質に合っているかどうかを確認していただきます。場合によっては薬局から病院への受診を勧められるかもしれません。1冊のお薬手帳に情報を集約し持ち歩く事が重要です。

病院でも、調剤室で調

医療講演会

「薬を効果的に飲んでいただくために」

7月30日(木) 14時/イオンモール八千代緑が丘
/講師:長澤宏之氏/無料
/予約不要/Tel 457-9900

剤するだけではなく、ベッドサイドまで薬剤師が出向き、薬の効果や副作用などを確認しながら、最善の治療ができるように支援しています。

薬剤師は、薬剤に関する事故や副作用を未然に防ぎ、最善の治療ができるように日々努力をしています。自分の飲んでい、使っている薬剤に不安や疑問がありましたら、ぜひ、薬剤師やかかりつけの医師にご相談ください。

長澤 宏之